

令和3年3月23日

足立区立千寿本町小学校

学校長 増田 好範 様

足立区立千寿本町小学校

開かれた学校づくり協議会

令和3年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

◎重点的な取組事項1 「『基礎学力』の確実な定着と『思考力・判断力・表現力』の向上」について

- コロナ禍で様々な制限がある生活の中、学校による工夫された教育活動の下、子供たち自身も自分たちなりの楽しみ方を見付けて工夫し「頑張ろう！」という雰囲気を感じる。
- コロナ禍での工夫を凝らした音楽会は、DVDで拝見して、大変感激した。先生方の創意工夫をすごく感じ、他校の方々にも話した。来年度の学芸会も楽しみである。
- 日光自然教室をはじめとする、コロナ禍での教育活動の制約が、子供たちにとって大変気の毒に思った。今後は、できる限り、コロナ禍以前のように実施できるようにしていただきたい。

◎重点的な取組事項2 「オリンピック・パラリンピック教育の推進」について

- オリパラ教育の一環として実施したボッチャ体験（1・2年）とゴールボール体験（5・6年）に指導者の一人として関わったが、「楽しかったよ。」という子供たちの声が聞かれて、大変嬉しかった。また、子供たちの態度も素晴らしい、感心した。今後も、オリパラ教育のレガシーを大切にし、継続できるものは続けていってほしい。
- まん延防止等重点措置適用に伴い、校内マラソン大会が中止になり残念だった。来年度はぜひ実施していただきたい（走る距離は、もっと長くしてもいいように思う）。
- コロナ禍によって外遊びをする機会が減り、子供の体力低下が心配であるため、PTAとしても何かできることがないか協力していきたい。
- コロナ禍によって町の中で子供たちが遊べる機会や場が益々失われつつあるので、キッズぱれっとの活動を引き続き大切にしていき、早く毎日行うことができるようになってほしい。

◎重点的な取組事項3 「教員の授業力の向上」について

- リモート学習は、1週間で子供は飽きてしまい、「学校に行きたい。」と言っていた。その一方で、リモート学習については、今後も継続していく方向で学校には取り組んでいただきたい。子供は、大人よりも覚えるのが早いので、学校も家庭も大人が子供に置いていかれないようにしていく必要がある。

◎重点的な取組事項4 「安心して生活できる環境づくりと個別支援教育の充実」について

- 朝会での校長先生の「コロナ感染者への偏見・差別・いじめは、絶対にあってはならない。」という話を子供たちはよく理解しているようで、子供たちの心の成長を感じた。
- いじめや不登校が「0%」の評価は、不登校の場合、それぞれの事情や背景があり、すぐに解消とならない場合もある。解消率の数字だけでなく、一人一人の状況に寄り添った継続的な対応が行わ

れていることが大切だと思う。

- コロナ禍によって2年間、学校行事に参加することができなかつた。そして、この2年間、子供たちも先生方もストレスがかなり溜まつたのではないかと思う。先生方が元気だと、学校も活気が出て、子供たちも安心し、良い影響を与える。先生方の雰囲気は職員室を見ても分かる。これからもストレスを溜めすぎないよう、元気に子供たちと関われるよう頑張っていただきたい。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

- 1月のPTA主催のきもだめしは実施することができて良かった。
- なかなか学校に行くことができないので、「評価」することは難しい。しかし、家の前を毎日楽しそうに登下校している子供たちの様子を見ると、友達と触れ合いながら学ぶのが学校であることは、再認識した。挨拶もよくできている。リモート学習を行う行わない関係なく、改めて『友達に会いたい！』というのが子供だと感じた。
- 地域の方に対しても、挨拶ができる子とできない子が見られるのが気になる。
- 登下校時や公園等で遊ぶ際の子供たちを、地域として今後もしっかりと見守っていきたい。
- コロナ禍のため、ラジオ体操への子供の参加が少なかったのが寂しかった。
- コロナ禍の1年間、学校も家庭も大変だったことと思うが、コロナ禍だからこそ子供たちができたこともあったことが分かった。ラジオ体操も、子供たちが参加することの大切さを改めて感じた。
- 働き方改革やコロナ禍の対応等、様々諸事情があるかもしれないが、それでも、地域行事に学校の先生方が参加されると子供たちや地域は喜ぶので、感染状況が落ち着いていたら、積極的に地域の行事にも参加していただけると嬉しい。